

2025 年 7 月 31 日 全 7 頁

Indicators Update

2025 年 6 月 鉱工業生産

市場予想を大幅に上回る結果も、先行きは関税政策の悪影響に注意

経済調査部 エコノミスト 中村 華奈子

[要約]

- 2025 年 6 月の生産指数は前月比+1.7%と 3 カ月ぶりに上昇し、コンセンサスを大幅に上回った。内訳を見ると、輸送機械工業（除. 自動車工業）や電子部品・デバイス工業などの増産が押し上げ要因となった。経済産業省は基調判断を「一進一退」に据え置いた。
- 先行きの生産指数は、当面の間は横ばい圏で推移を見込むも、米トランプ政権による関税政策がもたらす悪影響には注意が必要だ。日米関税交渉は合意に達し、対日相互関税率は 15%に設定された。当初想定されていた 25%の相互関税率と比較すると、日本経済への悪影響は緩和された格好になる。だが、海外経済の大幅な落ち込みなどのリスク要因は残っており、関税政策を巡る国内外の動向や経済活動への影響を引き続き注視する必要があるだろう。
- 2025 年 8 月 7 日公表予定の 6 月分の景気動向指数は、先行 CI が前月差+0.8pt の 105.6、一致 CI が同+1.0pt の 117.0 と予想する。この予測値に基づく、6 月の基調判断は機械的に「下げ止まり」に据え置かれる。

図表 1：鉱工業指数の概況（季節調整済み前月比、%）

	2024年		2025年							
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
鉱工業生産	▲1.7	▲0.3	▲1.1	+2.3	+0.2	▲1.1	▲0.1	+1.7		
コンセンサス								▲0.8		
DIR予想								▲1.5		
生産予測調査									+1.8	+0.8
補正值(最頻値)									▲1.0	
出荷	▲1.6	+0.0	▲1.0	+3.0	▲1.8	+0.1	+2.4	▲0.8		
在庫	▲0.8	▲0.3	+1.5	▲1.7	+1.2	▲0.8	▲1.8	▲0.4		
在庫率	+1.6	▲1.0	▲0.4	▲3.5	+4.4	▲0.6	▲1.1	+0.8		

(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) Bloomberg、経済産業省統計より大和総研作成

【生産】輸送機械工業（除. 自動車工業）や電子部品・デバイス工業などが増産

2025 年 6 月の生産指数は前月比+1.7%と 3 カ月ぶりに上昇し、コンセンサス（同▲0.8%、Bloomberg 調査）を大幅に上回った。内訳を見ると、輸送機械工業（除. 自動車工業）や電子部品・デバイス工業などの増産が押し上げ要因となった。経済産業省は基調判断を「一進一退」に据え置いた。

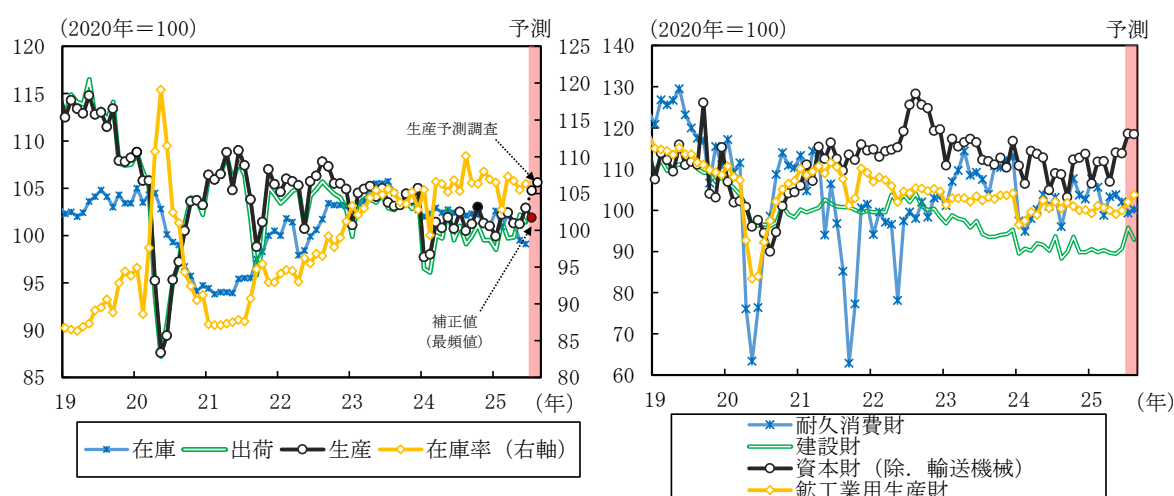
生産指数を業種別に見ると、15 業種中 8 業種が前月から上昇した。輸送機械工業（除. 自動車工業）（前月比+14.8%）は 3 カ月ぶりに上昇した。品目別に見ると、航空機用発動機部品（同+42.4%）や航空機用機体部品（同+32.3%）などが増産となった。電子部品・デバイス工業（同+2.9%）は 2 カ月ぶりに上昇し、品目別ではモス型 IC（メモリ）（同+53.8%）や固定コンデンサ（同+9.5%）などが増産となった。経済産業省「鉱工業出荷内訳表」によると、電子部品・デバイス工業は輸出向け（同▲5.7%）で低下した一方、国内向け（同+8.1%）で上昇した。汎用・業務用機械工業（同+1.4%）では、コンベヤ（同+67.1%）や運搬用クレーン（同+28.3%）などが増産となった。

財別に見ると、生産財（前月比+0.6%）と建設財（同+1.5%）が上昇し、非耐久消費財（同▲0.8%）と耐久消費財（同▲1.7%）、資本財（除. 輸送機械）（同▲0.2%）は低下した。

【出荷・在庫】出荷指数は 3 カ月ぶりに低下

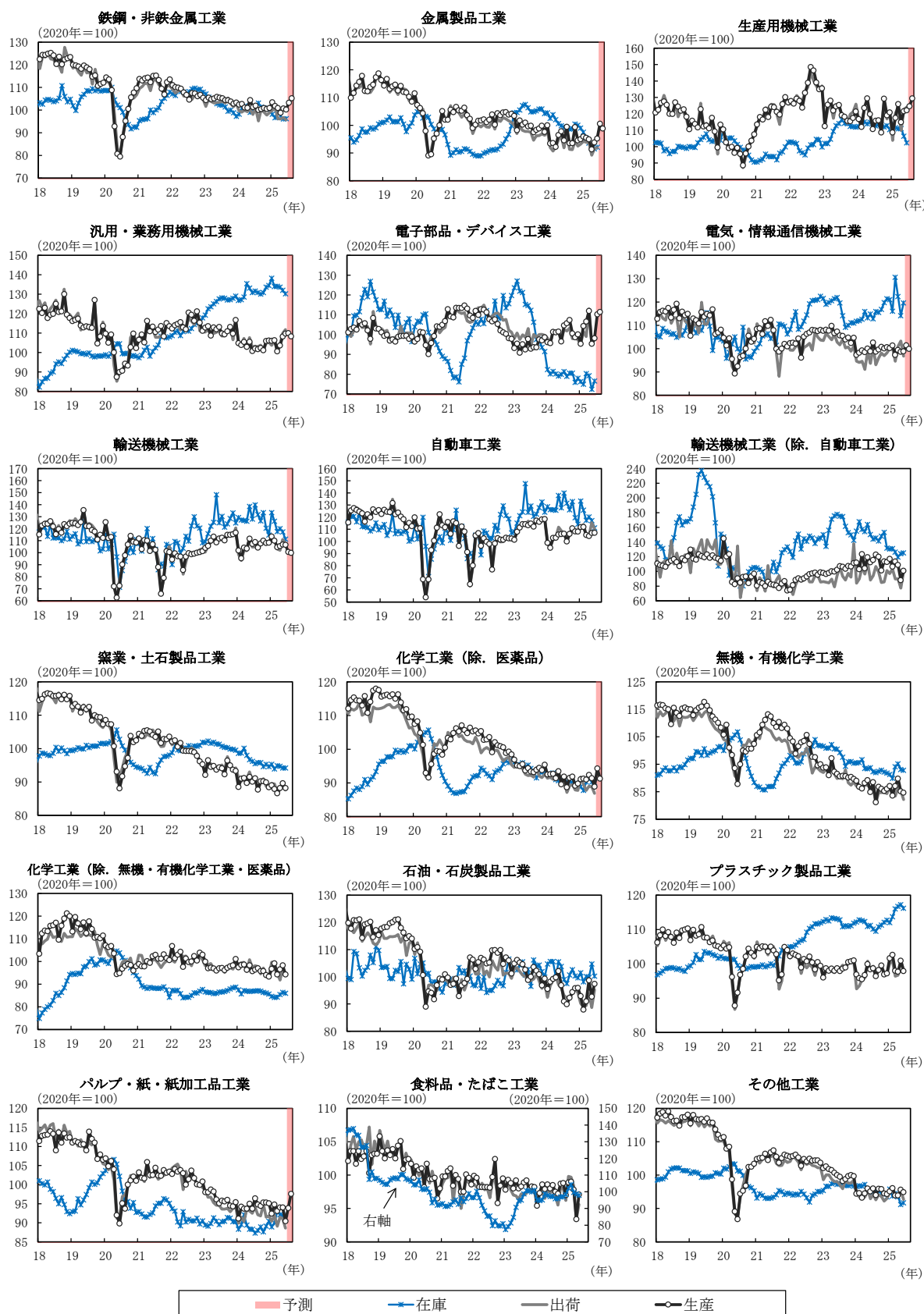
2025 年 6 月の出荷指数は前月比▲0.8%と、3 カ月ぶりに低下した。業種別では、自動車工業（同▲4.3%）や電気・情報通信機械工業（同▲6.3%）など 15 業種中 9 業種が低下した。財別に見ると、生産財と耐久消費財が前月から低下、建設財が横ばい、資本財（除. 輸送機械）と非耐久消費財が上昇した。在庫指数は同▲0.4%、在庫率指数は同+0.8%となった。

図表 2：鉱工業の生産・出荷・在庫（左）と財別の生産（右）



(注) 生産指数の予測値（赤色）は、製造工業生産予測指数の補正值。その他シャドー部分の値は、製造工業生産予測調査による。
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

図表3：業種別 生産・出荷・在庫の推移



(注1) 生産指数の予測値は、製造工業生産予測調査。化学工業（除. 医薬品）の予測数値は、化学工業全体の予測数値を使用。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

【先行き】当面の間は横ばい圏で推移も、米関税政策がもたらす悪影響には引き続き注意が必要

先行きの生産指数は当面の間は横ばい圏で推移を見込むも、米トランプ政権による関税政策がもたらす悪影響には引き続き注意が必要だ。

日米関税交渉は7月22日（現地時間）に合意に達し、対日相互関税率は15%に設定された。品目別関税では自動車・同部品への関税率が15%に引き下げられたほか、半導体・医薬品については、仮に追加関税が課される場合も、日本を他国に劣後する形で扱わないことが合意された¹。

当初想定されていた25%の相互関税率と比較すると、日本経済への悪影響は緩和された格好になる。だが、米国と他国との合意内容次第では、海外経済の落ち込みを受けて日本からの輸出が減少し、生産指数が押し下げられるリスクがある。

また、自動車業界では、一部メーカーが関税政策によるコスト増を懸念し、日本から米国への生産移管を既に決定している²。こうした動きが他メーカーにも広がれば³、国内生産に悪影響を与える可能性がある。さらに、日本政府は日系自動車メーカーに対して、米国生産車の逆輸入を促すことを検討している。仮に、自動車の輸入台数が大幅に増加すれば、国内生産の押し下げ要因となる可能性がある。関税政策を巡る国内外の動向や経済活動への影響を引き続き注視する必要があるだろう。

製造工業生産予測調査を見ると、2025年7月の生産指数は前月比+1.8%と見込まれている。業種別では11業種中10業種が上昇する見通しだ。電子部品・デバイス工業（同+12.3%）では集積回路などの増産が見込まれるほか、化学工業（同+6.1%）や電気・情報通信機械工業（同+2.6%）などの上昇が見込まれる。ただし、実際の生産指数は予測値よりも下振れする可能性がある。生産指数全体の計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）⁴で見ると、7月は同▲1.0%と見込まれている。前月比で+1.8%という増産計画は、やや割り引いてみる必要があるだろう。

2025年8月の生産指数は前月比+0.8%と見込まれている。業種別では11業種中4業種が上昇する見通しだ。生産用機械工業（同+3.8%）では半導体・フラットパネルディスプレイ製造装置などの増産が見込まれるほか、鉄鋼・非鉄金属工業（同+1.9%）や電子部品・デバイス工業（同+1.1%）などの上昇が見込まれる。

¹ 内閣官房「[米国の関税措置に関する日米協議：日米間の合意（概要）](#)」（令和7年7月25日）

² NHK「[ホンダと日産 現地向け生産の一部 日本からアメリカへ移管](#)」（2025年4月16日）

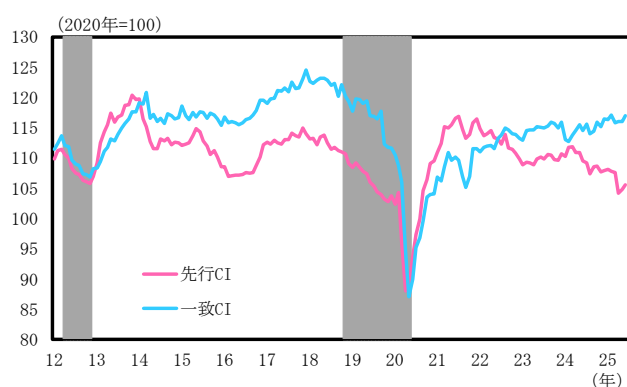
³ 日本経済新聞「[いすゞ、米国向け小型トラックを現地生産へ 関税影響緩和見込む](#)」（2025年7月28日）

⁴ 生産計画は生産実績よりも上振れした値となることが多いため、生産指数全体の計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）が公表されている。

【25 年 6 月景気動向指数】先行 CI、一致 CI いずれも上昇を見込む

鉱工業指数の結果を受けて、2025 年 8 月 7 日に公表予定の 6 月分の景気動向指数は、先行 CI が前月差+0.8pt の 105.6、一致 CI が同+1.0pt の 117.0 と予想する（図表 4）。先行 CI では構成指標のうち、消費者態度指数やマネーストック（M2）（前年同月比）などが前月から改善した。一致 CI では構成指標のうち、輸出数量指数や投資財出荷指数（除輸送機械）、商業販売額（卸売業）（前年同月比）などが前月から改善した。この予測値に基づくと、6 月の基調判断は機械的に「下げ止まり」に据え置かれる。

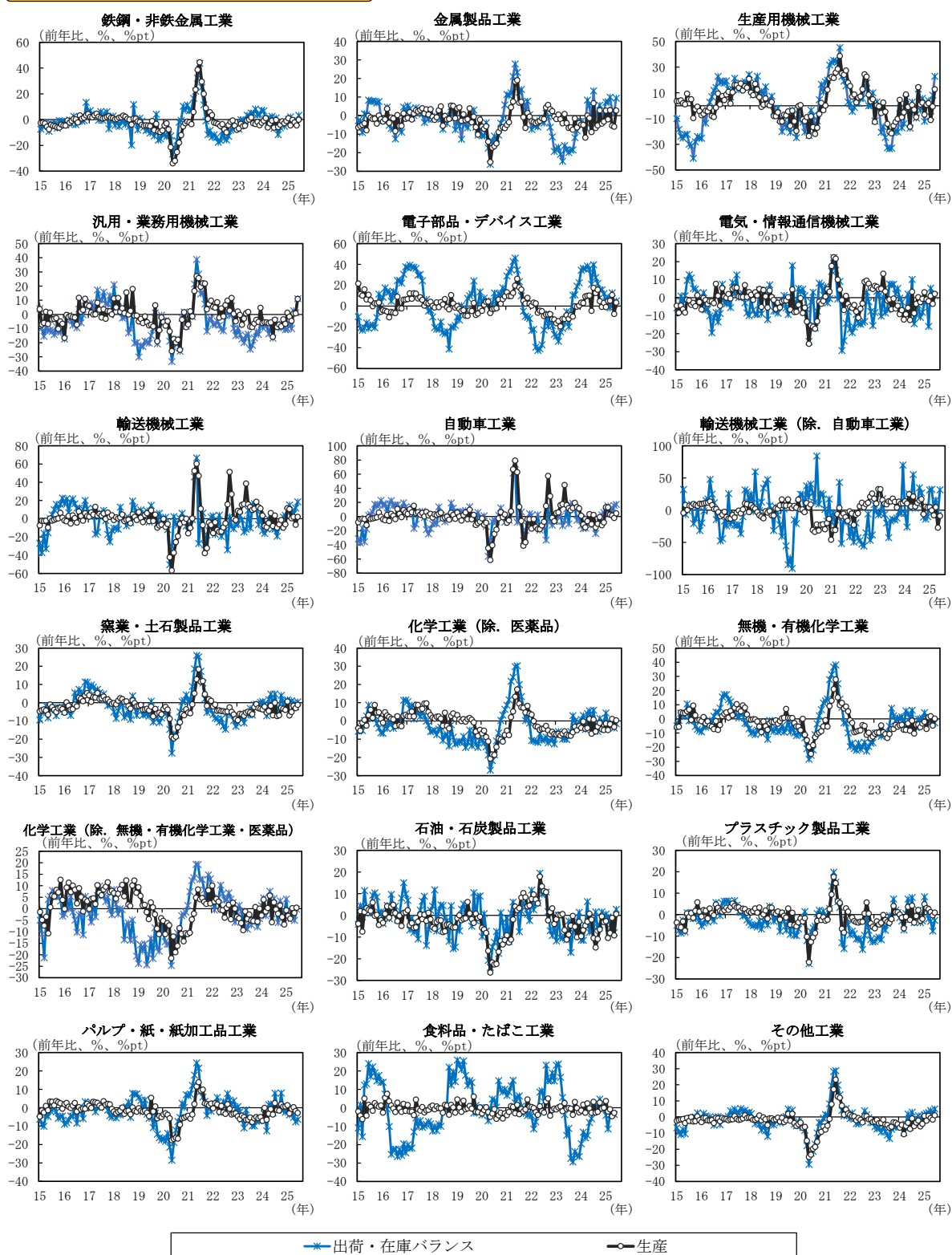
図表 4：景気動向指数（先行 CI、一致 CI）と基調判断の推移



(注) 左図の直近は大和総研による予測値。シャドーは景気後退期。
右図の2023年4月以前の基調判断は2015年基準による。2025年6月は和総研予想。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

基調判断		基調判断	
2024年1月	足踏み	2025年1月	下げ止まり
2024年2月	下方への局面変化	2025年2月	下げ止まり
2024年3月	下方への局面変化	2025年3月	下げ止まり
2024年4月	下方への局面変化	2025年4月	下げ止まり
2024年5月	下げ止まり	2025年5月	下げ止まり
2024年6月	下げ止まり	2025年6月	下げ止まり
2024年7月	下げ止まり		
2024年8月	下げ止まり		
2024年9月	下げ止まり		
2024年10月	下げ止まり		
2024年11月	下げ止まり		
2024年12月	下げ止まり		

業種別 出荷・在庫バランスと生産



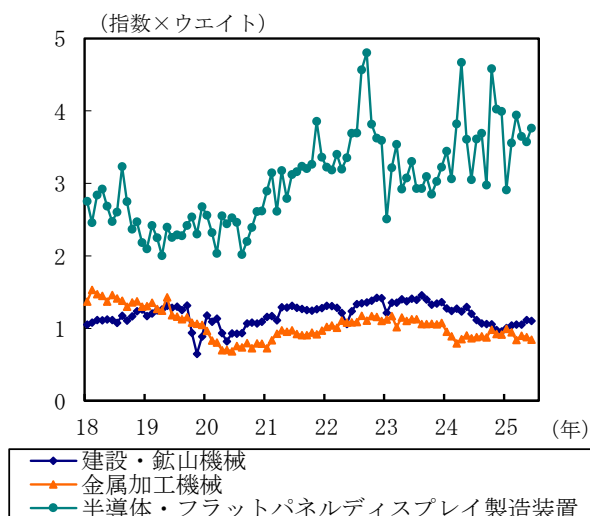
(注1) 出荷・在庫バランス＝出荷前年比－在庫前年比。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

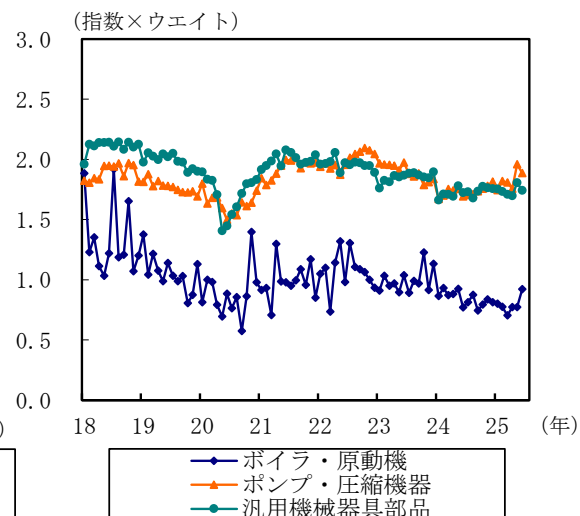
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

主要産業の生産動向(季節調整値)

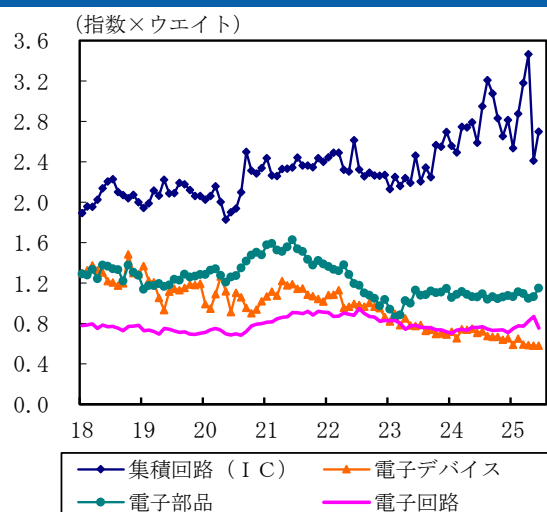
生産用機械



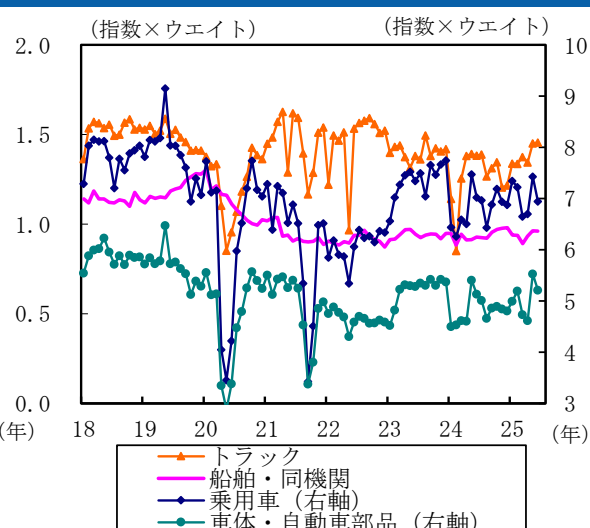
汎用・業務用機械



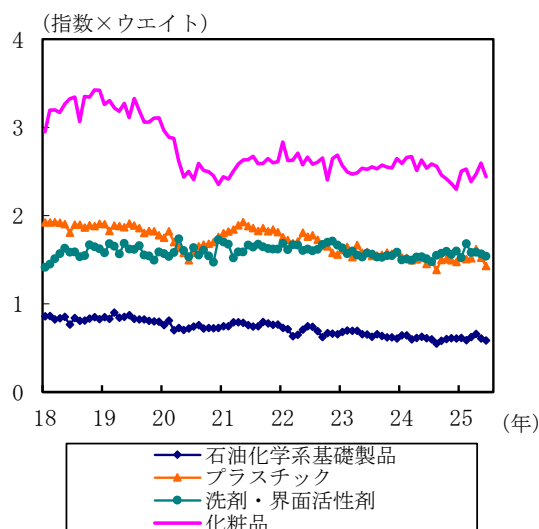
電子部品・デバイス



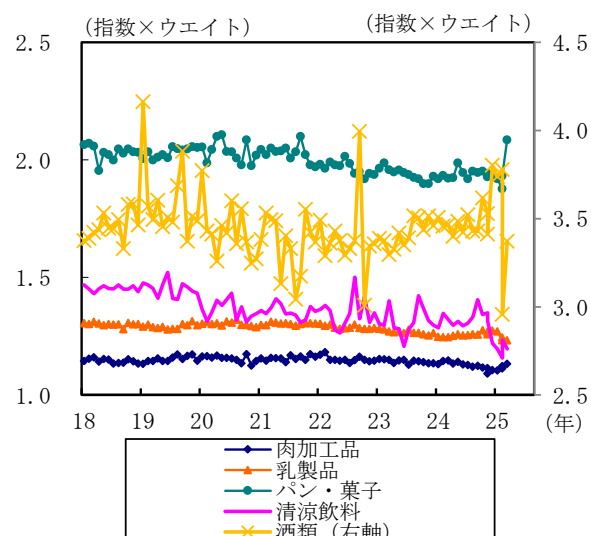
輸送機械



化学



食料品・たばこ工業



(注) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため、直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成